

平成 28 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ タネハシ セイコ
氏名 種 橋 征 子

研究期間 平成 28 年度

研究課題名 介護労働者に対する「ケア」の概念についての研修プログラムの開発

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	種 橋 征 子	人間関係学部	助教
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究の目的は、介護老人福祉施設の介護職員が自分たち（フロアレベル）で取り組みやすい「ケア」の概念の研修方法を開発することである。2013 年に A 介護老人福祉施設の介護職員に対し経験学習をモデルとした「ケア」の概念についての研修プログラムを実施した際に明らかになった、職員同士でこの研修に取り組む上での課題（利用者との関わった経験を振り返る際の概念化の困難さなど）の検証と課題の克服方法を検討する。

新たに調査依頼した 2 施設（B・C 施設）において、フロアリーダーを対象に研修プログラムを実施する。各プログラム実施後にアンケートやワークショップを行い、リーダー自らが「ケア」の概念を理解し、フロアでのグループワークのファシリテートやメンバーの経験を概念化する上で感じる困難さを明らかにする。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

「ケア」の概念についての研修プログラム（事前アンケート記入、講義、振り返りシート記入、振り返り内容共有のためのワークショップ）及び、フロアメンバーに援助の価値を気づかせるための工夫について共有するためのワークショップを B 施設は平成 28 年 5 月中旬～平成 29 年 2 月 27 日、C 施設は平成 28 年 7 月中旬～平成 28 年 12 月 19 日）に実施した。講義、振り返りシート記入、振り返り内容共有のためのワークショップ後には、記述式アンケートも併せて行った。

講義は、研究代表者が実施し、ワークショップはグループのファシリテーターとして各施設の主任クラス職員（フロアリーダーの上位職位）の介護職員の協力を得て実施した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

現在、フロアメンバーに援助の価値を気づかせるための工夫について共有するためのワークショップについてデータ分析の途中であるため、それ以外の調査結果について概要を記す。

講義の感想 アンケートの結果、「ケア」の概念や利用者との間の「ケア」の実態について、漠然と感じていたことが講義によって納得したことや身体を使った介助とのみ思っていたケアの認識が変わったことなどが記されていた。また、利用者からの気遣いは日頃の仕事の中では意識されにくいため、今後も「ケア」の概念を言葉として伝えていく必要性が示された。

事前アンケート、振り返りシート、シート記入についてのアンケート 記入された利用者との関わりの中での利用者を気遣い助けた経験、利用者から気遣われ助けられた経験に小見出しを付与し、類似の経験をまとめた。その結果、2013年度調査と同様、関わりを通して利用者からの気遣いや信頼、自分のしたことに対する承認についての認識を得ている経験が記されており、シート記述により「ケア」の関係性の存在に対する気づきを促すことができた。また、利用者の強みや痛みとして記された利用者の自分についての話、家族や職員に対する態度や言葉に関する記述からは、その利用者自身を支える大切な存在、物を持っていることが考察された。このため、関わりを通じた感情のやりとりや認識の変化だけでなく、利用者や職員自身に対する深い洞察と意味づけに繋がる「ケア」の概念の教示方法、振り返りシートの内容、分量について工夫の必要性が明らかになった。

振り返り内容共有のためのワークショップ、ワークショップについてのアンケート ワークショップについて、自分とは異なる解釈の仕方や自分と同じ悩みや経験を聞くことで情報共有の良さや振り返ることの大切さを実感したという意見もあった。しかし、時間の短さなどワークの設計の問題や経験を語ることの難しさ、どうしても困難回避の対策を検討してしまうなどリーダーの抱える課題、ファシリテートの仕方について工夫や課題が得られた。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

① ケア	② 介護職員	③ 振り返り	④ 経験学習
⑤ 援助の価値	⑥ 職員研修	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

今後の研究成果公開予定

現在、フロアメンバーに援助の価値を気づかせるための工夫について共有するためのワークショップのデータの分析途中である。研究成果については平成29年度中に、1つないし2つの所属学会での口頭及びポスター報告を行う。さらに、論文を学会誌あるいは紀要に投稿する予定。

今後の展望

「ケア」の概念の研修プログラムの確立を目指し、ワークショップのファシリテーターを担当した主任クラス職員とともに一連の研修プログラムの振り返りを行い、プログラム自体の課題、フロアリーダーのフロアメンバーの育成やフロア運営の課題について検討を行い、研修プログラムの修正を行う。